

# えんちく PTA 会報

# えんちく PTA 連合会

えんちく PTAは塩尻東筑摩の各地区単位PTAを応援する会報誌です。



木曽橋川小学校運動会「高学年リレー」スタート瞬間 2014.9.20

『子どもの豊かな未来づくり』  
~共に学び・語り・育てよう~



東筑摩塩尻PTA連合会報 No.22

<http://enchiiku.net/>

## 特集

『平成26年度 東筑摩塩尻PTA連合会研修会』

いっしょに学ぶ

『山形小学校 山形村リーダー養成通学学舎』

こんなPTAいかが

『筑北村立聖南中学校PTAの活動報告』

日本PTA研究大会／関東ブロックPTA研究大会／長野県PTA研究大会  
専門委員会活動報告／専門委員会講演会／Eコラ／お知らせと報告等 etc

おいしい給食レポート・わたしたちの学校紹介

# 平成26年度 東筑摩塙尻PTA連合会研修会



山本 文子 先生

## 講師プロフィール

1944年高知県に生まれる。北海道大学医学部附属助産婦学校卒業後、助産婦として3000人以上の赤ちゃんを取り上げられてきた。同時に中学・高校生を中心とした性教育の講演を始められ、1998年、講演活動と個人の相談に専念するために「いのちの応援舎」を設立。「いのちってあったかい」「性を大切にすることはいのちを大切にすること」をテーマとして20数年間、現在も日本各地にてパワフルかつ心温まる講演でいのちの大切さを伝えられている。

'03厚生労働大臣表彰、'07第59回保健文化賞、'08女性のチャレンジ賞、等多くの受賞歴をお持ちで著書も多数。

※2005年NPO法人化し、現在は助産院、おやこ広場、病後児保育、デイサービスを含む日本で唯一の複合施設として活動中。

えんちく郡P研修会が3月30日「子どもの豊かな未来づくり」を研究主題とし、塙尻吉田小学校を開催されました。吉田小PTA会員、また児童の皆様には、事前準備から当日の運営に渡り、多大なご協力いただきました。改めて御礼申し上げます。当日は「吉田太鼓」の力強い演奏で開会され、小口塙尻市長、小松県議会議員、小澤塙尻市教育委員長からお言葉をいただきました。その後、山本文子先生による講演会、さらに各分科会において個別テーマでの議論が取り交わされました。

## 講演会「いのち輝いて～性といのちを考える～」

山本文子先生ご自身のこれまでの子育てや助産師としての経験をもとに、大変説得力のあるお話をいただきました。特に、命の誕生のすばらしさ、3千人以上の命を取り上げてきた山本さんだからこそその力のこもったお話でした。

赤ちゃんが生まれたとき「生まれてきてくれてありがとう」と涙を流すお母さんがいる一方で、助産院開設前に中絶などでつらい涙を流す若い女性にもたくさん出会ってきている山本さんだからこそ、「つらい思いをする若者をこれ以上増やしたくない。命の大切さを伝えたい」の思い。それゆえに性教育が大切であることを特に強調されました。最後に山本さんが「これだけはお願ひしたい」と話された3つのこと。

① お母さんがおっぱいをあげている写真を撮ってほしい。「機会があれば思春期になった子に見せてあげたい」

② 母子手帳をきちんと記入してほしい。「ここにこそ、母親の思いが詰まっている」

③ 子どもをキュッと抱きしめてほしい。「抱きしめられたことのない子が問題を起こしていることが多い」

このことは、この山本さんにお話を聞いた参会者全員に特に心に響いた言葉となりました。



## 分科会「5分科会にわかれ研究協議」

### 【第一分科会】

「家庭における情報モラル教育のあり方」について、塙尻西部中学校の小林PTA会長さんにご提案頂きました。資料を元に、学校での講演会に出席する重要性、また使用時のルールなどを紹介して頂きました。

グループディスカッション形式にし、討議Ⅰ：「現状について」討議Ⅱ：「対応について」3のグループでそれぞれ意見交換を行った後、グループごとに発表して頂きました。討議Ⅰでは各家庭の利用状況、困っている事等が出されました。

スマートホン・パソコン・DS・音楽プ

レーヤー、各家庭での使用度はそれぞれです。現在、子どもまかせに使用させている。なんとなく信用している。フィルタリングが分からずそのまま。気が付いたらDSをインターネットに接続していました。親もよく分からぬ。等の意見が出ました。



では、どうしていけばよいのか、討議Ⅱではルールの必要性。子どもが使うとき側に親がいること。親もやってみないと分からない。学校でも家庭向け・児童向けに教育して欲しい。等、親も一緒にルールを考えたり勉強する必要性が多く出されました。

最後に中村校長先生より、情報モラルクイズと共に助言を頂きました。実際に使うのは家庭のこと。親子のコミュニケーションをとって子どもたちにも考えさせてみて、ルール作りをしっかり。学校・家庭・地域で繰り返し勉強していくことが大事。とまとめて頂きました。

## 【第二分科会】

「子どもたちの健やかな成長を求めて」～本校で行われている分科会を日常の学級PTAにつなげて～と題したテーマにて行われ、提案校の本城小学校、堀内PTA会長より発表があった。

本城小学校では、2回の講演会があり、その1回目の講演会の後に、講演のテーマ沿って、低、中、高学年の保護者、学校職員、教師が3つのグループに分かれ、意見交換をする。

ほぼ全家庭が出席し、また父親の参加もあり、日頃子育てや家庭での日常生活の悩み時の話し合いもで、いい分科会になっている。

質疑応答後、5～6名のグループに分かれ、提案校の発表を受けて、自校の取り組みについての意見交換をした。

親同士の意見交換ができると顔見知りになり、いいきっかけになりそうだ。意見の多さにびっくりした。いい取り組みであるので、自分の学校に取り入れていきたい。うるしの産地なので、うるし製品を子ども達と作る活動をしている。人数が少ないので、親と一緒に競技(運動会)があったりする。バザーを生徒とPTAが一緒に進めている、地域の方が協力してくれている。講演会等を実施しても、いつも同じ顔ぶれになっているその

事が課題。人数が減ってくると、行事も精選していくかなくてはならない。など様々な意見がでた。

最後に助言者の赤羽校長先生から「PTAの支えがあつての学校である」の言葉をいただき第二分科会が、無事に終了した。



## 【第三分科会】

第三分科会では、「バザー」について話し合いました。以前は、多くの学校で行われていたバザーですが、近年、次第に実施している学校が少なくなってきたり、問題点が出てきたりしている現状ですので、その様子について考えてみました。

現在もバザーを実施している塩尻西小学校から、様子を発表していただき、話し合いました。話題として1つには、

「いかにバザーを盛り上げるか」があります。品物集めの期間に参観日を入れたり、ノルマ制を取り入れたりする工夫もありますが、やはり、近年、集まる品物



が少なくなっている傾向にあるようです。盛り上げ方としては、品物の置き方、値段の下げ方、あわせて行うイベント、近

くの商店街への協力要請等、各校さまざまな工夫がありました。またスムーズで問題の起こらない会計場所の設置も気を使うところです。

問題点として、バザーを行う上で何らかの目標があったほうが、会員全体の気持ちが盛り上ることがやバザー中のマナーに関してのよくない点、売れ残り品の扱い方について等があがりました。

最後に助言者の大和田校長先生から、バザーは金銭的なことばかりでなく保護者同士、また学校と近隣の方たちとのつながりを深めるという大事なこともあるというご指導をいただき、終了しました。

## 【第四分科会】



藤森広丘小学校PTA会長から、「PTAでやろうよ」と言うのは難しいので、自分で出来るささやかなことで、どのような変化が生めるのかと思って聞いてほしい」と、短歌の取り組みについてお話をありました。広丘小では、「短歌委員会」があり、文集とは別に「短歌集」も作っています。塩尻には「塩尻文芸」「短歌フォーラム」「短歌公園」「歌碑公園」があり、学校では短歌の心を育て大事にしているが、保護者で親しんでいる人は少なく、PTAに短歌をねじ込んでみたそうです。地区懇

談会では、短歌「なんだろな 子どものために できること」をテーマに話し合ったり、会長が短歌をやりたがっていることが浸透し、何かにつけ短歌を用いると拍手があるので、定着してきたを感じているそうです。短歌募集を行ったら、少ないながらも自発的に出されるようになったそうです。参加者から短歌を始めたきっかけを質問され、公民館報に載っていた子どもたちの短歌が面白く、飯山市の中村公園を良いと思い作り始めたとお答えがありました。その後、各学校の親子でのいろいろな取り組みを話し合い有意義な会となりました。

## 【第五分科会】

【学校・地域との連帯活動】というテーマで、両小野中、南原会長、池上校長より【小中連帯を視野に入れながら、地域ぐるみで子どもを育てるこことを目指したPTA活動】と題した発表がありました。

小学校と中学校を9年間のつながりで考えることが【小・中一貫】学校だけではなく地域とつながることこそが絆。地域の中の人と人とのつながりを昔のようにするのは難しい。そこで学校を中心として人が集まるようにする。地域のつながりを生かした組織づくりと情報交換が必要となる。地域のつながりを生かした組織づくりと情報交換が必要となる。

それが地域支援地域ボランティアであり、学校運営委員会であると活動報告がありました。質疑応答では「コミュニティースクールと小中一貫は別ものと思うが」という質問に対し、「大きくとらえ、9年間のつながりで考えればよいのでは?」との意見がでていました。又各学校から老人会とのつながりや公民館活動での地域の子どもたちの関わりなど、紹介があり、他校の特色ある話が聞けて良かったと思います。最後に桜井先生に助言を頂き無事終了致しました。





## 山形小学校 山形村リーダー養成通学学舎

平成24年度から始まった「通学学舎」はじめは、校長先生との何気ない会話から「今の子どもは“生きる力”が足りない」と聞き、子どもの生きる力を育むために、小学校4年生から6年生の希望者を対象に公民館主催で開催しました。



3年目となる今年は、3泊4日の日程で児童30名が参加しました。午前6時に起床し、朝食作りをしてから学校へ登校します。下校後は、勉強、夕食作り、配膳、片づけ、入浴、自由時間の過ごし方など、すべて子どもたちが自主的に計画を立て、地域の大人が見

守りながらふれあい、そして、家族と離れ、公共施設に寝泊まりすることで、普段とは違う異年齢との共同生活の中で「思いやること」「助け合うこと」「がまんすること」を学びます。

子どもたちからは、親の大変さが分かった、友達と

生活したことがとても楽しかった、来年も参加したいという感想が多くありました。

この事業は、たくさんの地域の方々に支えられています。子どもたちの社会性を育むきっかけとなり、保護者の方には子育てに関して省みる機会に、そして地域の方々には地域のコミュニティの再構築と地域を挙げて子どもを育てようとする機運の高揚のきっかけになることを願っている意味も込められていますので、継続して欲しいと思います。

山形村立 山形小学校  
東筑摩郡山形村下大池3867  
児童数 550名



# 特集 みんな大いすき

Vol. 11



# 生坂小学校の給食を紹介します

生坂小学校は全学年あわせて74人です。中学校の給食もあわせて毎日給食を作つて下さつてゐる、給食室を取材ひました。

給食の食材の多くを生産者さんからいただいてあります。野菜やキノコ果物までも。生産者さん達は年に1度、子ども達は一緒に給食をいたたくという日があります。どんな方がどんな思いで作られているか、その材料を給食の調理員さんがどんな思いで作った下さり自分たちの口に入り自分たちの身体を作っているのが、直に体験できます。



給食の先生から

生坂村の給食は地域の方々の熱い想いに支えられています。たくさんの方々の想いを給食にのせて子どもたちに伝えられるこの仕事は本当に魅力的です。これからも給食作りを通して、生坂村の子どもたちをつなぐ一助を担えたらと思います。

栄養教諭 石本 博子



## 生産者さんからの声

- みんなに食べてもらえる野菜をもっとおいしく作れるように勉強して届けます。
  - こどもはたがでます。安心安全な食材を作ろうと頑張っています。
  - ひとつ小さなたねから出来た野菜をいただくという気持ちでたべてほしいです。
  - 皆さんおいしいといってくれる顔を見るのもっと頑張ります。
  - みんながいっぽいあそんで、勉強してもらえる様に野菜を作っています。



### シリーズ こんなPTAいかが?

# 『筑北村立聖南中学校PTAの活動報告』

庭は完全にきれいにすることはできません。作業後、保護者と職員が参加する慰労会が、学校近くの保養センター「とくら」で行われます。日頃の家庭での生活や子育ての悩みなど先生方との話でいつも盛り上がりつています。



現地の方にハンドマッサージをする生徒

ちの強さを感じたようですが、保護者として生徒の活動を支えるだけでなく、1人の人間としても多くのことを考えさせられる「東北被災地訪問」になりました。これからも、生徒と共に活動し学び続けていきたいと思います。

ト部による現地の中学校との交流試合を行いました。参加した保護者も生徒と共に被災の方と震災当時のお話を聞いたり、被災地の現状を見たりすることで、改めて震災による苦しみや悲しみ、また前向きに生きる南三陸町の方た

月上旬に学校環境を整えるためのP.T.A作業があります。参観授業が終わつた後、生徒と保護者と一緒に行います。全校生徒は73名、家庭数は61軒と少ないですが、ほとんどの家庭が参加します。そのわりに敷地が広いので作業は大変です。作業内容は、校庭・土手・中庭・各学年のきつましいも畑の草刈り、庭木の剪定、自転車置き場のベンキ塗り等など多岐にわたります。生徒は「どっこい」というかけ言葉

〈東北被災地訪問〉  
聖南中学校では、特色ある教育活動「ささやめプロジェクト」として、次の3つに取り組んでいます。①全校合唱「コール聖南」によるNHKコンクールへの挑戦 ②有志による宮城県南三陸町への「東北被災地訪問」③地元の「善光寺街道を歩く」これらは生徒の「やる気」「挑戦」「自信」を育む場として、保護者地域の方も活動に参加協力しています。  
10月11・12日に行われた「東北被災地訪問」は3年目を迎え、生徒3名と担任4名の保

## 第62回 日本PTA全国研究大会 長崎大会

開催日：8月22日(金)23日(土)  
場 所：長崎県長崎市ほか

日本PTA全国協議会主催の全国研究大会が、異国情緒豊かな長崎県で行われました。本大会は、全国小・中学校PTA会員ら約8000人が参加し、長崎県内10会場での分科会、そして全体会で構成される大規模な研究集会です。えんちく郡Pからは2名が参加し、日本における教育課題などを学んできました。



参加した第8分科会では、「タフな子どもを育てよう！」がテーマとされており、神戸製鋼ラグビー部GM、平尾誠二氏から、ラグビーを通して得られた教育感に関する講演を聴講しました。「親が一番厳しいことを言わないと」「しつけは家庭の仕事」「親は友達では無い、子どもに嫌われても親子の繋がりは切ることができない」核家族が進む現代社会、子どもの人格形成に対する両親の責任は大きくなっています。両親自身が成長しその任を果たすと共に、それを補うためにも、地域との繋がりはさらに重要になってくると感じました。

パネルディスカッションでは、「みんなで作る『健康・安全』」を論点に、5名のパネリストによる議論を聴講しました。「最近の子どもはタフで無くなっている?」「いや、ネットの発達等、社会環境が急激に変化する中で子どもは適応している。そういった意味で、時代に合わせて要求されるタフさは変化し、観点や大人の対応も変化していく必要がある」などのディスカッションがされました。詳細は日本PTA全国協議会のWebをご覧ください。

## 第56回 長野県PTA研究大会 全佐久大会

開催日：10月19日(日)  
場 所：佐久市コスモホール



紅葉が深まりつつある佐久平にて、「心で向き合えていませんか」を大会テーマとして全佐久大会が開催されました。今年は、県P父母親委員会によるパネルディスカッション、喜多川泰先生による講演会が企画されました。

パネルディスカッションは、『我が家の子育て！激突！！隣の子育て！』～子育ては毎日が泣き笑い 母達のわくわく本音トーク～と題して、ゲストに藤森美代子さん（オリエンタルラジオ藤森慎吾さんのお母様）をお招きし、現役お母さんによるトークショーが繰り広げられました。なお、9名のパネリストには、えんちくからは2名のお母さんが参加され会場を沸かせました。「朝ごはん、お米を炊き忘れて御煎餅を出した...もとは同じお米だし...」「少し手のかかる子どもだけど、そのおかげで先生や地域の多くの人と繋がることができて親としても成長することができた」など、お母さんの本音に会場からも共感の声が上がっていました。なお、会場の意見を取り入れる工夫もされており、朝食を準備するというお父さんが結構いることに、お母さんからは驚きの声が上がっていました。

## 第46回 関東ブロックPTA研究大会

開催日：10月25日(土)26日(日)  
場 所：さいたま市文化センターほか

ささえ合い いのち尊び たくましく  
まごころつなぐ 子どもたちに  
～五つのことだま 子は親の鏡 生き抜く力を子どもたちに～

いざという時「どんなことがあっても生き抜くたくましさを子どもたちに身につけて欲しい」という願いのもと関東ブロックPTA研究大会がさいたま市で開催されました。

1日目はさいたま市の各地で8つの分科会にわかれそれぞれの研究テーマで講演会や研究発表が行われました。えんちく代表者は第1分科会に参加し、埼玉大学教育学部准教授菊原伸郎氏の講演を拝聴しました。菊原氏はフットサル日本代表や浦和レッズでの活躍後、現在は学生と共に地域のスポーツクラブで指導をなさっているそうです。スポーツを通して心身の向上とみる力の養成が生きる力を育む、大人が先回りせずトライ＆エラーで獲得し自分の感覚でわかるようになることの重要性を講義してくださいました。

2日目は全体会。記念講演「ココロとカラダに優しい歌薬」をテーマに歌手の沢田知可子氏のコンサート形式の講演が行われました。心に響くような歌声と歌の合間に話される人生の経験に自然と涙があふれました。さいたま市PTAのパワーあふれる大会に、元気をもらった2日間になりました。



## 松塩筑地区教育関係七団体連絡協議会による陳情

開催日：9月24日(水)  
場 所：長野県教育委員会・長野県議会

東筑摩塩尻・松本市PTA連合会と松塩筑の教育委員会、教育会、小中校長会、校長教頭組合、教職員組合で構成される教育七団体24名にて、長野県教育委員会と長野県議会へ以下の内容について陳情に行って参りました。

- (1) 多様化した児童生徒へのより細やかな指導の実現
- (2) 教員配当に関わる基準の改善と教員数の拡充
- (3) 公立高等学校の募集定員の確保
- (4) 公立高校の条件整備
- (5) 私立高等学校授業料等の保護者負担の軽減（県議会のみに陳情）



参加者からは、少人数学級は徐々に拡充が進んでいるが、学習面、生活面においても、まだ支援を必要とする生徒がいる状況の中で更なる教職員の増員が必要。今後、小規模校が更に増えていく中で、すべての生徒が十分な学習を受けられるように教員の配置を検討頂くとともに、学力向上のため専科教員の増員もお願いしたい。また、松商学園の併願入試が無くなつたことで行き場がなくなる生徒もあり、中学浪人を出さないように入学定員数について検討を頂きたい。地域高校や定員割れを起している高校に、特色のある、他校にはない活力ある魅力づくりができるようになれば、志望校分散が期待でき、是非お力添えをお願いしたい等の意見が出されました。

# 第2回専門委員会協議会 教育問題・父親母親・学校地域連携委員会

開催日：9月27日(土) 場所：東筑摩塩尻教育会館

## 教育問題検討委員会

「保護者と教師が酒を酌み交わすこともままならず、関係が希薄になっている昨今、学級PTAは担任とコミュニケーションをとる貴重な時間だが、参加者が少ないので現状で、活性化させることは、子ども達のために良いと考えるが、問題点やどのような工夫をしているか？」との問い合わせに、「父親も関わりたいが会社が認めない」「母子・父子家庭が増えた」「母親が参加するものとのイメージが強い」「小規模校は出席率が良いが大規模校は学年と学級PTAがあるため参加率が低い」などの問題点と、「アイスブレーキングを取り入れる」「担任が悩みを抱え込んでいる場合はそれを学級PTAで話し合う」「目的や議題を明確にした通知を出す」「お茶を出す」などの工夫点について意見が出されました。

## 父親母親委員会

第2回の委員会ではより活発な意見交換をめざし、7名ずつの2グループに分かれています。

テーマ① 学級懇談会について

テーマ② グループごとにテーマを決め

「何がいや？PTA」「親子のコミュニケーション」

についてそれぞれ意見交換を行いました。

共通テーマでもあった学級懇談会では、充実した学級懇談が行えているか、どんな内容で行い学校・先生との連携をとっているか話し合いました。父親の参加が少なかったり、先生からの連絡の会になっていたりする現状もあるようですが、行事と関連し出席しやすくする雰囲気作りの工夫や、先生との交流会を行うなど学級独自の工夫で父親も参加する良さや顔を合わせることの良さを感じている学校もあり、今後のPTA活動に生かしていく意見交換となりました。

それぞれのテーマで行った意見交換「何がいや？PTA」

では役員を任されている親同士の悩みや解決策について話されました。「親子のコミュニケーション」では親子間でのコミュニケーション方法や、その時に親として気を配っているところなどが話し合われました。

今回の委員会は、父親の参加が多い委員会となりました。普段は仕事で親子の時間がなかなかとれない中で、皆さんそれぞれ意識して子どもとの関わりをもつ工夫をしていることが印象的でした。次回の委員会ではコミュニケーションについての講演会を企画しており、次回につながるよい意見交換になったと思います。

## 学校・地域連携委員会

信州型コミュニティスクールについて、情報交換、意見交換をしました。

PTAの立場として「地域の人の力を借りてと言うが、学校は本当に困っているのか。実態がわからないし、進めようとしている側とのギャップがあるように感じる。」

「自分の学校では、読み聞かせボランティアや通学合宿、算数寺子屋等が行われているが、どれも地域の方とふれあえるよい機会になっている。地域としてやりたいことややってほしいことはたくさんあるのだが、学校からは具体的な要望はなかった。これがギャップだろうか。」という率直な感想や、「少子高齢化や過疎化で地域力が減退している。これは子どもの利益にならない。地域を活性化して、大学を出た子どもが故郷に帰って来なくなる地域を作らなければいけない。自分の地元を助ける人の育成と受け皿となる地場産業の活性化が大切だ。」「コミュニティスクールの実現に向けてコーディネーターの選任がキーポイントだと思う。学校も地域もわかっていて、発信力・決定力・実行力のある人をどうやって見つけるかではないか。」といった意見が出されました。

地域の活性化とコミュニティスクール、地域を愛する子どもの育成とコミュニティスクールが結びつき、信州型コミュニティスクールについて理解を深めることができました。



### 本城小の歴史を感じる卒業写真

本城小学校教頭  
伊賀 雅志

今年度よりお世話になつてゐる本城小学校は、今年で125年の幕を閉じ、来年度4月から坂北小と統合し筑北小となる。筑北小の校舎は現坂北小の場所になるため、本城小学校は実質的には何も残らない。そういうこともあってか、保護者や地域の方の思いは格別のものがある。先日、お年寄りの方々が音楽室に集まつて歌を歌う集まりがあつた。その際閉校記念式典(11月13日)で作成した4m四方の巨大写真(現存するすべての卒業写真(大正2年(1913年)等を貼り合わせたいといふ希望があり、飾られてある体)を型どつしたもの)を見たい」という希望があり、東筑摩塩尻P.T.A連合会 第4回専門委員会、第2回単位P.T.A会長会 ■期日 平成27年1月24日(土) ■会場 東筑摩塩尻教育会館

## お知らせと今後の予定

東筑摩塩尻P.T.A連合会

第4回専門委員会、第2回単位P.T.A会長会

■期日 平成27年1月24日(土)

■会場 東筑摩塩尻教育会館

単位P.T.A役員研修会(中南信)

■期日 平成27年3月1日(日)

■会場 塩尻市文化会館(レザンホール)



# 『信州型コミュニティスクールについて』 第2回専門委員会全体研修会

開催日：9月27日(土) 場所：東筑摩塩尻教育会館  
講師：中信教育事務所生涯学習課 指導主事 大日野 剛 先生

第2回専門委員会にて、県の教育委員会が推進する信州型コミュニティスクール（信州型CS）について勉強しました。

信州型CSとは、これまで築き上げてきた学校と地域が連携して子どもを育てる取り組みを土台にして、さらに地域が学校と『こんな子どもを育てたい』という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みを持つ学校です。

## 《信州の伝統》

- 学校を大切にする風土
- 地域に根ざした教育

→ さらに推進

## 《信州CS》

- 持続可能な運営委員会を設置  
(地域住民・公民館・PTA・学校支援ボランティア・コーディネーター等)

- ①学校運営への参画  
機能
- ②学校支援
- ③学校関係者の評価

県として平成29年度には、全県の小中学校で実施することを目標としていますが、初めて耳にする方も多く、戸惑う声もありました。

しかし、変動の激しい社会に適応できる子どもを育てるた

めには、社会的自立につながる経験、世代間交流が不可欠になっています。すでに学校では地域の講師による学習が始まっていますが、教員の異動と共に、地域学習が終了してしまい、持続性がありませんでした。また、学校の取組がなかなか地域に伝わってこないという課題もありました。

そこで、運営委員会での話し合いが重要になり、その連携の要となるのが、コーディネーターです。コーディネーターには、学校と地域の両方に精通している公民館長や主事、PTA役員（OB）が適任です。こうした開かれた学校づくりを通して、少子化が進み過疎化や高齢化社会の中であっても、地域住民の生きがいや学びの場が出来て、地域の発展と将来地元へ帰って活躍する人材が生まれることを期待したいと思います。なお、信州型CSの詳細につきましては、長野県教育委員会のホームページに詳細が掲載されています。検索「信州型コミュニティースクール」



## 私の達 の 学校 紹介します



### 塩尻市立宗賀小学校

児童数248人（5月1日現在）

校長 横山 義雄 PTA会長 塩原 清彦  
長野県塩尻市宗賀2646  
<http://www.souga-e.ed.jp/>

**宗賀小学校は今年、140歳の誕生日を迎えました！  
140周年事業スローガン：『初心～未来へつなぐ～』**

宗賀小学校は明治7年に開校し、今年で140周年を迎えた。記念事業を通して、地域に学校を多く開放し、地域の方々と共に世代を超えて140周年を祝い、宗賀小学校やふるさと宗賀への誇りを育む事が出来たらと思っています。いくつかの記念事業を紹介します。

開校140周年記念音楽会：第2部を記念事業とし、宗賀小卒業生でプロジェクトドramaーの中野裕次さんをお招きました。「リズムでつながろう」と題し、金管バンドと「シングシングシング」の共演や全校でのリズム遊びを行いました。体育館内が一体となりリズムでつながりました。



開校140周年記念運動会：宗賀小に代々伝わる全校ダンス。そのルーツを紹介しました。昭和24年に当時の教職員が考案・指導し、持つ物もハンカチや手旗を経て現在はポンポンを使用しています。今年度はまた転機の年です。全校ダンスを保護者や地域の方々も参加できる種目とし、校庭に児童を囲む大きな輪がつながりました。



開校140周年記念「のはらうた」工藤直子講演会：「のはらうた」でお馴染みの工藤直子さん。とっても楽しい講演を児童向け・保護者地域の方々へ向けて頂きました。子ども達の目はキラキラと輝いていました。



宗賀の日：これは毎年行っている学校行事ですが、ぜひ紹介させて下さい！縦割り班に分かれて、校庭でカレーを作ります。材料の野菜は各学年分担して春から育てたものを使います。飯盒でご飯を炊くのは5年生4年生。カレーは6年生を中心に1・2・3年生と作ります。校庭にかまどがいくつも出来、いい香りと煙とにぎやかな声。出来上がった班から「いただきます！」楽しい一日です。



開校140周年記念のつどい：本山分校の鐘の音から始まりました。これは当時本山分校に在籍していた方に鳴らしていただきました。それから、記念事業のスローガンにもなっている

「初心」の書のお披露目です。児童の発表として、5学年の「宗賀小学校の宝物」6年2組の「未来へつなぐ床尾太鼓」がありました。そして記念講演会、松山三四六さん「熱いハート



でつながろう」。強さとは優しさであることを見ても分かりやすくお話しして下さいました。最後は未来へつなぐ1年生3人が鐘を鳴らし、全校の呼びかけをして閉幕しました。来年2月には記念誌も予定しています。そして、141年目へつながりでいきます。

